

自己評価シート【東根住区センター児童館】

1、福祉サービスの基本方針と組織

1-1 理念・基本方針

1-1-1 (1) 理念、基本方針が明文化（児童館内の文書や広報媒体（パンフレット、ホームページ等））され周知が図られている。	
【判断基準】 (a) 児童館の理念、基本方針が適切に明文化されており、職員、利用者等への周知が図られている。 (b) 児童館の理念、基本方針が明文化されているが、内容や周知が十分ではない。 (c) 児童館の理念、基本方針の明文化や職員、利用者等への周知がされていない。	
【自己評価】	実践例（取組や記録等）
<input checked="" type="checkbox"/> a)、 <input type="checkbox"/> b)、 <input type="checkbox"/> c)	児童館の理念、基本方針は事業計画に明文化し、職員会議や研修を通じて職員の理解を深めている。また、児童館だよりのコラムコーナーでは施設理念や行事のねらいなどを掲載し、利用者への周知に取り組んでいる。
1-1-2 (2) 理念、基本方針の確立・周知について	
良いと思う点	改善が必要だと思う点
次年度の事業を計画する際には、前年実施の事業を振り返り、事業の方向性に反映させている。 また、地域会議や児童館地域懇談会を開催し、関係機関や地域住民に対して理念や方針の周知に努めている。	来館者が日常的に目にすることができるよう館内に児童館の理念や方針がわかる掲示物を作成する。 また、活動やイベントの情報を地域へ周知するために、HPなどを活用して今以上に地域や外部に情報発信をする。

2、児童館の活動に関する事項

2-1 児童館の理念・目的及び施設特性

2-1-1 (1) 児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の理念と目的を、自館の基本理念や基本方針等に盛り込んでいる。	
【判断基準】 (a) 児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の理念と目的を、自館の基本理念や基本方針等に盛り込んでいる。 (b) 児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の理念と目的を、自館の基本理念や基本方針等に盛り込んでいるが、十分ではない。 (c) 児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の理念と目的を、自館の基本理念や基本方針等に盛り込んでいない。	

【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
<input checked="" type="checkbox"/> a)、 <input type="checkbox"/> b)、 <input type="checkbox"/> c)	施設の特性を活かせるよう、住区住民会議や地域の方々や近隣の保育園、小学校、中学校と連携を取り、良好な関係性を築いている。また、利用者である子どもたちと保護者が地域の方々とも繋がっていけるコミュニティになるよう事業を実施している。
2-1-(2)	
児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の施設特性を發揮している。	
【判断基準】	
(a) 児童館の施設特性を發揮している。	
(b) 児童館の施設特性を發揮しているが、十分ではない。	
(c) 児童館の施設特性を發揮していない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
<input checked="" type="checkbox"/> a)、 <input type="checkbox"/> b)、 <input type="checkbox"/> c)	利用者と丁寧に関わり随時要望の抽出を行いながら、年齢や発達段階に合わせた活動ができるよう各部屋のルールやレイアウトの見直しを定期的に行っている。児童館行事では積極的に地域団体やボランティアを受け入れることで、利用者と地域の方々の交流を図り、地域の子育て支援のネットワーク構築に努めている。
2-1-(3)	
子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。	
【判断基準】	
(a) 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。	
(b) -	
(c) 子どもの権利擁護に関する取組が十分ではない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
<input checked="" type="checkbox"/> a)、 <input type="checkbox"/> b)、 <input type="checkbox"/> c)	子ども会議の実施やアンケートを設置することで、子どもが意見を発信できる機会をつくっている。 子どもと関わる際は傾聴を大切にし、考えや気持ちを尊重することで一人ひとりに寄り添った対応を心掛けている。子ども同士のトラブルが起きた際には、お互いの話を聞き、相互理解と子ども自身で解決ができるようサポートをしている。
2-1-(4)	
児童館の理念・目的及び施設特性について	
良いと思う点	改善が必要だと思う点
児童館運営指針にある「子どもにとっての心地よい居場所づくり」という考えを全職員が目標とし	子どもが意見を発信できる取り組みは行えているものの、実現のためにどのように進めていくか施設

<p>て定め、主体的に運営に取り組んでいる。</p>	<p>として実績を重ねる必要がある。より子どもの力を運営に取り組んでいけるよう検討していく。</p>
----------------------------	--

2-2 遊びによる子どもの育成

<p>2-2- (1) 子どもの発達の特徴や発達過程を理解し、一人ひとりの心身の状態を把握して子どもの育成を行っている。</p>	
<p>【判断基準】</p> <p>(a) 子どもの発達の特徴や発達過程を理解し、一人ひとりの心身の状態を把握して子どもの育成を行っている。</p> <p>(b) 子どもの発達の特徴や発達過程を理解し、一人ひとりの心身の状態を把握して子どもの育成を行っているが、十分ではない。</p> <p>(c) 子どもの発達の特徴や発達過程を理解していない。</p>	
<p>【自己評価】</p>	<p>実践例（取り組みや記録等）</p>
<p><input checked="" type="checkbox"/> a)、<input type="checkbox"/> b)、<input type="checkbox"/> c)</p>	<p>毎日の職員会議で、子どもの状況や気になること等を話し合い、職員間で共有している。また、必要に応じて記録に残して継続した関りがもてるように取り組んでいる。一人ひとりの個性を理解し大切にしながら、職員間で共通の認識を持った上で、子どもに寄り添い育成を行っている。</p>
<p>2-2- (2) 子どもが自ら遊びを作り出したり遊びを選択したりできるようにしている。</p>	
<p>【判断基準】</p> <p>(a) 子どもが自ら遊びを作り出したり遊びを選択したりできるようにしている。</p> <p>(b) 子どもが自ら遊びを作り出したり遊びを選択したりできるようにしているが、十分ではない。</p> <p>(c) 子どもが自ら遊びを作り出したり遊びを選択したりできるようにしていない。</p>	
<p>【自己評価】</p>	<p>実践例（取り組みや記録等）</p>
<p><input checked="" type="checkbox"/> a)、<input type="checkbox"/> b)、<input type="checkbox"/> c)</p>	<p>子どもの気持ちを大切にしながら、遊びに関わっている。その際、主体的に遊べるように支援している。各部屋で子どもがやりたいことを選択できるよう多種多様な遊びを提供し、定期的に見直している。プレイルームでは「そうだんタイム」を設定することで、子ども自身がやりたいことを選択できる仕組みを構築した。</p>
<p>2-2- (3) 子ども同士が同年齢や異年齢の集団を形成して、様々な活動に自発的に取り組めるように援助している。</p>	
<p>【判断基準】</p> <p>(a) 子ども同士が同年齢や異年齢の集団を形成して、様々な活動に自発的に取り組めるように援助</p>	

<p>している。</p> <p>(b) 子ども同士が同年齢や異年齢の集団を形成して、様々な活動に自発的に取り組めるように援助しているが、十分ではない。</p> <p>(c) 子ども同士が同年齢や異年齢の集団を形成して、様々な活動に自発的に取り組めるような援助を行っていない。</p>	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
<input checked="" type="checkbox"/> a)、 <input type="checkbox"/> b)、 <input type="checkbox"/> c)	初来館や年下の子、遊びがわからない子に対して、優しく教えたり、言葉遣いに気を付けたりする思いやりをもった行動がうかがえる。必要に応じて職員も遊びに参加し、子ども同士を繋げていくことで自然と他校や異年齢交流が生まれるよう働きかけている。
2-2-(4) 遊びによる子どもの育成について	
良いと思う点	改善が必要だと思う点
思いやりの心を持ち、相手の気持ちに気付けるよう、言葉遣いを注意したり、時には職員が気持ちを代弁している。子ども同士の会話や遊びの中で、相手を思いやる声掛けをする場面も少しずつ増え、成長を感じることができている。	経験年数や勤務時間数によって対応力に差異が出ないよう努めているものの、難しい部分も感じている。全職員のスキルアップと現場内でフォローし合える体制づくりを強化していく。

2-3 児童館の安全管理

2-3-(1) 緊急時（事故、感染症の発生時など）の対応など利用者の安全確保のための体制が整備されている。	
【判断基準】	
<p>(a) 利用者の安全確保のために、体制が整備され機能している。</p> <p>(b) 利用者の安全確保のために、体制が整備されているが、十分に機能していない。</p> <p>(c) 利用者の安全確保のために、体制が整備されていない。</p>	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
<input checked="" type="checkbox"/> a)、 <input type="checkbox"/> b)、 <input type="checkbox"/> c)	「災害時初期対応マニュアル」に基づき、地震・火災・水害それぞれを想定した避難訓練を毎月実施し、有事の際に適切な対応ができるよう備えている。その他、碑文谷警察署に協力を依頼し、交通安全教室や不審者対応訓練を実施している。事務室には「事故・怪我・災害時フローチャート」を掲示し、全職員への共有とスムーズな対応ができるよう努めている。
2-3-(2) 利用者の安全確保のためにリスクを把握し対策を実行している。	
【判断基準】	
(a) 利用者の安全を脅かす事例を組織として収集し、要員分析と対応策の検討を行い実行している。	

<p>(b) 利用者の安全を脅かす事例を組織として収集しているが、要員分析と対応策の検討が十分でない。</p> <p>(c) 利用者の安全を脅かす事例を組織として収集していない。</p>	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
<input checked="" type="checkbox"/> a)、 <input type="checkbox"/> b)、 <input type="checkbox"/> c)	<p>チェックシートに基づき、開館前に施設点検を実施。運営の中で発生した事故やヒヤリハット案件については、毎日の職員会議時に共有し、要因分析と対応策の検討を行っている。</p>